卒業研究に関する評価の基準

卒業研究の審査方法・体制について

「卒業研究（卒業論文・卒業制作）」は、学部4年生を対象とした必修科目の1つで、いずれかの研究室に所属して、教員の指導のもと、これまでに修得した学問を駆使して遂行するものです。

＜審査方法＞
本科目は大学で学んだ学問の総仕上げに位置づけられ、学生は1年間の卒業研究を通して得られた成果を卒業論文または卒業制作にまとめるとともに口頭発表を行います。

＜審査体制＞
本科目は建築学部教員による審査を受け、口頭発表会では卒業研究の質と量について審査を受けます。審査の可否が卒業研究の単位修得に直接関係します。審査においては、主査1名、副査2名以上の体制で行います。

卒業研究の満たすべき基準について

建築学部		・学部の卒業研究の審査では、工学院大学学則の定める修得単位数を満たしていること。 ・所属する学科の研究領域において専門知識・専門技術を身につけ、現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。 ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。 ・自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。 ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、社会や職業についての知識や技術者として必要な倫理観を備えているかどうかを基に審査する。
まちづくり学科	学士 （建築学）	・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。 ・多角的な視点からまちづくりを学ぶことで、実現性の高いスキルを身につけている。 ・実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案できる。
建築学科	学士 （建築学）	・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。 ・建築をつくり，使い続け、資源として循環させたりする高度な要素技術を身につけている。 ・社会的な課題を背景とした、これからの新しい建築のあり方を提案できる。
建築デザイン学科	学士 （建築学）	・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。 ・環境への配慮や人間のQuality of Life向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけている。 ・人間のための建築デザインを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することができる。